

市税の3月の納期限は
ありません。

母子保健 (記事ID 1100)

HP
を見る

予防接種 (記事ID 1192)

HP
を見る

内容(予は要予約)	とき		対象(対は対象)
親子健康手帳交付	9日(金)	13:30集合	妊婦
	22日(木)	9:45集合	
パパママ教室(1回目)	22日(木)	10:30~11:30終了	主に妊娠6か月ごろまでの初妊婦とその夫
予 パパママ教室(2回目) ※予約は土日のみ	11日(日)	9:15受付~11:30終了	主に妊娠7か月以降の初妊婦とその夫
	23日(金)	13:15受付~15:30終了	
予 妊婦訪問	訪問は予約制です。 (希望者は保健センターへ連絡してください)		妊婦(訪問は妊娠中1回)
こんにちは 赤ちゃん訪問	3~4か月児健診受診前		すべての赤ちゃんとその保護者 (里帰り出産で市内滞在中の人も対象となります)
HP を見る 転入者予防接種等 説明会	13日(火)	10:00集合	主に7歳未満の子がいる転入世帯 (健康推進課窓口等で転入手続きした人を除く。)
予のびのび計測日*1 ※予約なしでも計測できます	13日(火)	10:15~10:45受付	未就園児 ※1医師の診察はありません。 持 親子(母子)健康手帳・乳児の場合はバスタオル
予 離乳食教室	7日(水)	10:00~11:30	主に第1子(4~5か月)をもつ保護者(乳児同伴可)
予 妊産婦歯科健康診査	予約してから、市内委託医療機関で受診してください。		妊婦と産後1年未満の産婦
BCG接種	6日(火)	9:15~10:15受付	H29年9月16日~H29年9月30日生
	23日(金)		H29年10月1日~H29年10月15日生
予 医療機関で接種してください 予約してから、市内委託	予 B型肝炎	対	生後1歳未満
	予 ヒブ、小児用肺炎球菌	対	生後2~60月に至るまで
	予 4種混合、不活化単独ポリオ	対	生後3~90月未満
	予 麻しん・風しん混合、麻しん単独・風しん単独	対	第1期：生後12~24月未満 第2期：小学校入学前の1年間
	予 水痘	対	生後12~36月未満
	予 日本脳炎	対	1期：生後6~90月未満、2期：9~13歳未満 救済制度により対象以外で接種可能な場合あり
	予 二種混合	対	小学6年生
予 子宮頸がんワクチン	対	小学6年生~高校1年生の女子	
厚生労働省の勧告を受け、積極的な接種の勧奨を一時的に差し控えています。			
体成分分析装置測定会	随時(時間は要相談)		市内在住の人

休日・夜間診療案内

日進市休日急病診療所

☎73-7555 (記事ID 1197) HP
を見る

診療時間	9:00~16:30 (昼休憩1時間あり)
診療科目	内科・小児科
所在地	日進市蟹甲町中島22 (中央福祉センター内)

夜間の急病・ケガは下記に問い合わせを

救急医療情報センター ☎82-1133

愛知医科大学病院 時間外診療

救急でかかりつけ医が開いていない場合、診療を受けることができます。
まず、電話で相談してください。
☎62-3311(代表)
なお、時間内、時間外問わず、紹介状なしで受診する等の場合、選定療養費(5,400円)が必要になることがあります。詳しくは愛知医科大学へお問い合わせください。

まちの保健師 (記事ID 10608) HP
を見る

保健師が様々な場所に出向き、健康相談をお受けします。
気軽にご相談ください。
詳しくは市ホームページにてご確認ください。



ドクターからあなたへ

胃食道逆流症(GERD)

ながくて西クリニック 遠藤一夫医師

食道と胃の境目が緩くなり、胃内容物の逆流によって不快な症状や合併症を起こした状態です。日本人の約2割にみられ、食道にびらんや潰瘍のあるもの(びらん性GERD)と、両者が無いもの(非びらん性GERD)があり、治療効果が異なります。高齢者の増加、食生活の欧米化、ピロリ菌感染率の低下、食道の胃酸に対する知覚過敏(敏感になっていること)により、最近この病気が増えています。症状は、胸やけ、胸のつかえ感、飲み込む時の痛み、口の中が酸っぱい感じ、胸痛、咳、喉の違和感、声枯れ、など多彩です。診断には内視鏡検査が必要です。治療ですが、薬物療法として胃酸を抑える薬が用いられ、生活習慣の改善も有効です。

食道下部括約筋を緩めるような脂肪分の多い食事を避け、食べ過ぎ、早食い、夜食を控え、禁煙しましょう。お腹の圧が上がると、胃内容物の逆流を起こしやすくなりますので、肥満や便秘にならないようにし、重たい物を持つことや前かがみの姿勢を避けましょう。寝る時に背中に厚めのバスタオルを敷き、腰から頭を高くするのも効果があります。また、この病気に悪影響を与える薬がありますので、主治医に相談してください。この病気は食道癌ができやすいので、年に1回の内視鏡検査をお勧めします。消化器内科専門医のもとでの検査、治療、経過観察が重要です。